

源

六年

画数 13
筆順
オン ゲン
クシ みなもと

成り立ち



崖の形の「ㄣ」と「泉」とで、「崖からわき出る泉（みなもと）」を表した「原（年122）」が、「はら」という意味に使われるようになってしまったので、「原」に「氵」を加えて「みなもと」の意味を表したものです。

「みなもと」ということは「水な元」ということで、「な」は今の「の」にあたります。だから、「水の元」という意味のことばです。

「水流の始まる所」のことです。【例】源泉、源流、水源。また、「物事の「始まり」」「元」「起こり」という意味にも使います。【例】起源、根源、資源、財源、字源。

使い方

▽ぼくのおとうさんの活力の源泉。源泉は家族みんなの楽しいだんらんだと言っています。みんなが仲良くして、楽しそうだと、おとうさんも家族のために、バリバリ仕事をやる気がわいてくるのだそうです。

▽日本は天然の資源にとぼしい国です。石油も出ませんし、鉱物も豊富ではありません。日本の資源は人間という人がいます。天然資源のとぼしいわが国は、人間が知恵と力を出しあつて、国を富ませて行くほか無いというのです。

熟語例

- ▽源泉（水や温泉がわきでてくるみなもと。またそこから、「何かがわきでてくるもと」のことを言います。）
- ▽源流（川の流れであるみなもと。また、物事の始まり）
- ▽水源（川や水道のみなもと）
- ▽起源（物事の起こり。「起原」とも書きます。）
- ▽根源（物事の根本。「根元」とも書きます。）
- ▽資源（産業の元になる物質）
- ▽財源（何かをするのに必要なお金の出る元）
- ▽字源（文字、とくに漢字の起こり）

嚴

六年

画数 17
筆順
オン ゲン・ゴン
クシ おごそか・きびしい

成り立ち



「言い合いをする」ことを表した「𠄎」と、「きびしい崖」という意味の「嚴」とを組み合わせて作った字です。

「きびしい言い合いをする」という意味の字ですが、今は、「言い合いをする」という意味が全くなくなってしまいい、「きびしい」という意味に使っています。【例】嚴重、嚴格、嚴父、嚴禁、嚴守、嚴密、嚴正。

また、「身がひきしまるほど」「おごそか」という意味にも使われます。【例】尊嚴、威嚴、嚴肅、嚴然、莊嚴。

〔嚴は、崖の形の「ㄣ」と「敢」の形声字で、漢音のゲン、呉音のゴンはカンの変化したものである。〕

使い方

▽ぼくのおじいちゃんはおとうさんに嚴格なしつけをしたそうです。厳しいおとうさんのことを嚴父というそうですが、おじいちゃんは、まさに嚴父だったわけです。おとうさんは、ぼくにとてもやさしくしてくれず。ぼくはやさしいおとうさんでよかったな、と思います。

熟語例

- ▽嚴重（非常に厳しいこと。「重」は、非常に。）
- ▽嚴格（厳しく正すこと。「格」は、正すこと。）
- ▽嚴父（嚴格な父親）
- ▽嚴禁（厳しく禁ずること。「火氣嚴禁」などといいますが。）
- ▽嚴守（嚴格に守ること。）
- ▽嚴密（厳しく細かいこと。）
- ▽嚴正（厳しく正しいこと。）
- ▽尊嚴（尊く厳かなこと。）
- ▽威嚴（堂々として厳かなこと。）
- ▽嚴肅（厳かで身がひきしまること。）